



学校だより

令和2年6月1日

# ひびき 6月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

## 学校再開に向けて

副校長 斎藤 忠雄

地域・保護者の皆様には、この度の新型コロナウイルスの感染拡大につきましては、長期にわたる臨時休校の実施にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。緊急事態宣言が解除となり、横浜市立学校において、横浜市教育委員会から6月1日以降、分散登校による学校再開の通知がありました。未だ新型コロナウイルスの感染が終息せず、長期に渡る状況になると思われませんが、本校では、感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減しながら児童の学びを支えていきたいと考えています。

先日、8月10日から始まる予定の第102回全国高等学校野球選手権大会の開催について、高野連などの主催者が「開催中止」を決定しました。選手や関係者の健康や安全を守るための苦渋の決断であったと思われれます。スポーツ界だけでなく、コロナ感染拡大防止のための自粛に伴い、社会全体を通して多くの犠牲が払われ、テレビのニュースを観るたびに心が痛むばかりです。

ただ、一方では、最前線で感染症と闘う医療従事者を始め、様々な方面で今の状況を改善しているかと前向きに尽力している人達があります。そうした方達と同じ方向を向き、まずは身の回りの生活の中で微力ながら自分ができる小さな協力や前向きな行動を積み重ねて今の状況を乗り越えていきたいものです。

前向きという意味では、自粛生活の中で各家庭でも「新たな発見」や「小さな気づき」もあったように思われれます。臨時休校やテレワークにより、ステイホームする中で、「自分自身の生活を見つめ直すことができた」、「家族で過ごす時間が増えて親子でコミュニケーションを多くとれた」、「断捨離をして家の中をすっきりと整理・整頓した」、「新しい趣味に着手した」、「いつもはやらない家事を手伝って褒められた」など、「小さいいいこと」、「新たな挑戦」の声が、大人からも子どもからも聞こえてきました。引き続き、厳しい状況が続く中で少しでも明るい方向へと自分達の生活を見直す中で、小さな工夫や改善を見出して、少しずつ前向きに前進していきたいところです。

分散登校が始まって、一層気を引き締めてコロナ感染症対策をしながら学校生活を進めていかなければなりません。マスクの着用、ソーシャルディスタンス、換気、手洗いなど、厚労省から公表された「新しい生活様式」について、子ども達に支援・指導しながら、可能な限り学校生活の中に取り入れていきます。今後とも地域の皆様や保護者の皆様にもご理解・ご協力いただきますよう、よろしく願い申し上げます。